卒業生ア・ラ・カ・ル・ト

「高島俊男コーナー」を設置

平成21年3月24日、東高7回生有志の皆さんが同級生の高島俊男さんの著書59冊を東高へ寄贈されました。

今回の寄贈の発端は、1年半前にさかのぼります。総合雑誌「文藝春秋」の人気コーナー「同級生交歓」に高島俊男さんとともに福本正明さん、亀山節夫さん、藤堂彰男さんの7回生4人が登場。東高の屋上で世界遺産・姫路城をバックに写された写真に収まり、平成19年12月号に掲載されました。その際に同級生から高島氏の著作を学校に寄贈したい旨の申し出があり、それが今回の贈呈へと実を結んだのです。

寄贈の申し出から1年半の間に高島さんは新刊を5冊上梓。関係者はインターネットや古書店をめぐり、過去の著作を収集し、全作品が揃いました。

贈呈当日は、7回生幹事の福本正明さんが「風刺の効いたざっくばらんなエッセーで一世を風靡し、全国に根強いファンを持つ高島さんの世界を味わっていただきたい」とあいさつ。図書室の一角にコーナーを設置し、生徒・職員に披露しました。

校長室で寄贈を受ける

文芸春秋取材時に東高屋上にて（平成19年10月）

◆高島俊男さん（東高7回）

1937年、相生生まれ。1955年、姫路東高を卒業。東京大学で経済学・文学部中国文学を専攻。さらに同大学院を卒業し、岡山大学法文学部助教授を経て在野の研究者となる。

1991年、「水滸伝と日本人　江戸から昭和まで」で大衆文学研究賞受賞。1995年、「本が好き、悪口言うのはもっと好き」で講談社エッセー賞を、2001年に「漱石の夏休み　房総紀行」「木屑録」で読売文学賞を受賞。「漢字と日本人」で日本語における漢字の問題点を論じて話題となったほか、李白と杜甫を比較して論じた「李白と杜甫」など研究者として高い評価を得ている。

県女一期生の「卒業證書」を受贈

寄贈下さった井上さん（右から2人目）

平成21年3月3日（火）、鳥取市在住の井上勲さん（東高3回）から、ご母堂井上まさゑさんの「県女一期生卒業證書」の寄贈を受けました。

当日は、校長をはじめ関係の先生方、東生会から堀田哲郎常任幹事（東高3回）が校長室で井上さんを迎えました。額縁に納められた「卒業證書」は、戦災で多くの資料を焼失した母校にとって極めて貴重なもの。創立百周年を迎える記念の年に、嬉しい贈り物でした。

二重の喜びの日

百周年記念館起工式の日平成21年4月4日（土）。式の終了後、東生会館を出たところに華やかな和服の二人の姿がありました。

これは何事？　と話をうかがってみると、お二人は東高54回生の安積希真さんと中谷佐和子さん。ご両人は5月30日（土）に結婚式を控え、写真の事前撮影の場所に母校を選んだとのことでした。この記念すべき日に東高を訪ねてこられたお二人、お幸せに！